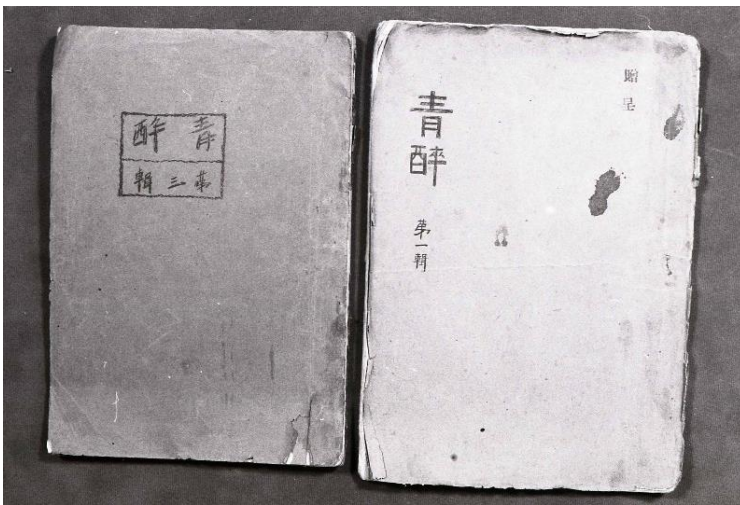


今号の内容

- 詩集『野良に叫ぶ』
- 図録紹介「草屋根の年中行事」
- 「なんぼった」の初体験
- 宗門改と村々
- 夏のイベント予定

詩集『野良に叫ぶ』

市民学芸員 安藤 昭子



同人誌『青酔』



平凡社刊『野良に叫ぶ』

『野良に叫ぶ』は南畑出身の農民詩人・農民運動家、渋谷定輔が1926（大正15）年に著わした詩集です。この詩集は日本で最初の農民自身による農民詩集として、出版当時から高く評価されています。

定輔は1905（明治38）年、入間郡南畑村（現富士見市上南畑）の自作兼小作農家の長男として生まれました。読書や勉強が大好きで成績優秀な子どもでした。きつい野良仕事を強いられる日々のなかで読書だけが彼の救いでした。小学6年生の時には年上の友人から借りた大杉栄や野村隼、石川啄木、ゲーテ、ハイネ、マルクスの『資本論』などを読みふけていました。家の経済事情により高等小学校卒業後は進学を許されず、厳しい農作業の合間に独学で勉強を続けました。文学にも打ち込み、自らも詩や短歌を創り、1922（大正11）年に近郷の文学青年たちと『青酔』という同人誌を出しています。また、同時に農民運動にも傾倒していきました。

この頃、困窮した農民たちによる小作争議が全国で頻発していました。南畑でも小作料軽減要求から南畑小作争議が起こります。定輔は当時17歳でした

が、争議の主要メンバーの一人として活躍しました。22年の暮れから24年の春まで続いた小作争議は、小作農が団結し小作地を一斉返還し耕作放棄するという戦術で農民側が全面勝利し終結を迎えました。

その間、定輔は小作争議と労働の過酷な状況の中で貧しい小作農の苦しみ、怒り、憤り、そして農民解放への思いの発露として詩作を続けていたのです。その詩群はのちに、著名な思想家である土田杏村により見出され『野良に叫ぶ』として刊行に至ることになります。

小作争議のあと定輔は、詩作を捨て農民運動に没頭し、農民自治会、全国農民組合埼玉連合会などの中枢に関わり、農民の解放という視点に立脚して活動していきます。『野良に叫ぶ』はまさに彼の思想の原点といえるでしょう。

初版は平凡社より1926年に刊行されました。1964（昭和39）年には、同じく平凡社より『定本 野良に叫ぶ』が再刊、さらに1977（昭和52）年には『普及版 野良に叫ぶ』が勤草書房より刊行され、読み継がれています。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

図録『草屋根の年中行事』

年中行事は日本の風土のうえに成り立ち、稲作社会の発達とともに整えられてきました。

富士見市域の家や集落で行われてきた年中行事も歴史的な起源はさまざま、長い年月の中で種類や内容も移り変わってきたと考えられます。

本図録は平成20年春季企画展の展示図録です。構成は、①草屋根から瓦屋根へ②富士見歳時記、昭和のはじめ③暮らしの中の年中行事④おもな行事の内容⑤地域の行事⑥家を守る神々、となっています。大正時代から昭和30年代頃まで市域で行われていた年中行事について、実物資料・写真資料などからなる豊富な図版とともに紹介されています。また農民運動家・農民詩人である渋谷定輔の著書『農民哀史』に見られる年中行事の一覧も収録されています。

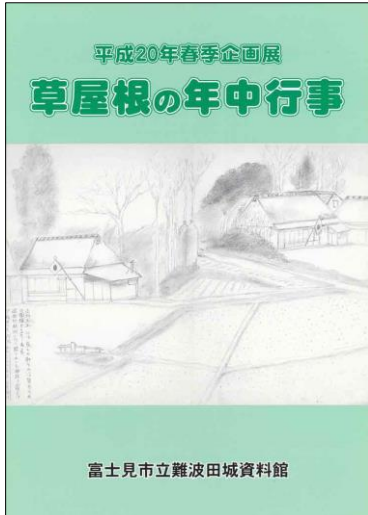
この図録でも述べられているように、当時この地域の農家の多くは草屋根の家屋で、農作業の機械化もされず、厳しい肉体労働が続いていた時代でした。

その中で年中行事の多くは、農作物の豊穰や家内安全を祈ることが最大の目的でした。そして娯楽の少なかつた当時、ふだんとは異なる

食べ物・衣服・儀礼をともなう行事は、大きな楽しみでもあったといえます。

本図録は草屋根に暮らしていた人々の生活の一端を知ることができるものです。

(佐々木澄子)



資料館窓口にて400円で販売中

おもしろ・なつかし体験⑦⑥

「なんぼった」の初体験

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

僕「なんぼった」。難波田城公園生まれのバツタです。今回は縄文マラソンからバトンタッチをした「ふじみシティーマラソン」が、僕の誕生した南畑地域の田園風景の中(南畑小学校周辺)で行われるということで、公園を飛び出しました。

当日(2月26日)は風が強く、とても肌寒い日でした。

親子1km、小学生1.5km、中学・高校生、一般の男女5km、10kmと多種のコースに分かれての大会です。

僕は、何も分からないので2人の市民学芸員さんの助けを得て、会場に行ってみました。するとビックリ!なんと写真を一緒に、と大勢の方々が、僕と並んで、“ハイ、チーズ”。そして傍らでは2人が難波田城公園を猛アピール。大いに宣伝してくれました。

更に僕が本部席の方に歩いて行くと関係者の方がマイクを通して「難波田城公園から『なんぼった』が応援に来てくれました」と会場に放送。

するとますます僕は人気者。そして思いました。みんな怪我なく楽しくゴールして下さいと。

(なんぼった代筆・岡田栄子^{しげこ})



スポーツ協会の人とも“ハイ、チーズ”

人の創ったもの★人の使ったもの

宗門改と村々

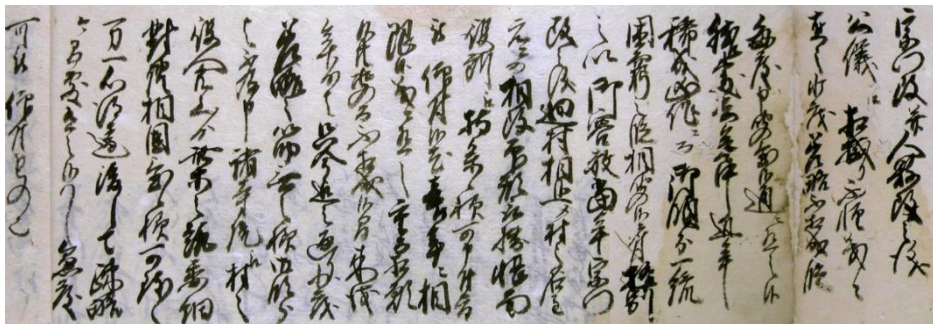
キリスト教の禁止と宗門改

天文18年(1549)に日本にキリスト教が伝えられると、九州地方を中心に西日本でキリスト教徒が増加しました。キリスト教布教はポルトガルやスペインとの貿易と一体であったため、その利益を求め江戸幕府も当初は布教を黙認していました。しかし、慶長18年(1613)に禁教令を發布し、キリスト教を禁止しました。宣教師の国外追放、キリスト像などを踏ませる絵踏、報奨金を伴う密告奨励などにより、キリスト教徒の摘発と改宗を進めました。

キリスト教禁制が進められると、寺の住職に自らの信徒の家(檀家)がキリスト教など幕府の禁止する宗教・宗派の信者ではないことを証明させる寺請が行われるようになりました。寛文11年(1671)から、檀家がキリスト教徒などではないことを証明する調査が毎年行われるようになりました(宗門改)。

調査の結果は宗門改帳と人別改帳にまとめられました。前者は、家ごとに当主を筆頭に家族全員の名前・宗旨・檀那寺を記したあと、末尾にキリスト教徒などでないこと証明するため檀那寺が押印しました。後者は戸籍簿的な意味もあり、家ごとに家族の名前・年齢・宗旨・檀那寺を記し、末尾に名主などが押印しました。

天保8年(1837)2月9日「宗門改并人別改之節廻村相止候儀二付申渡」
(大澤誠一家文書4「御用御触控」より)



このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

川越藩による宗門人別改

下の資料は天保8年(1837)2月9日に川越藩の宗旨方役所から出された宗門改に関する触書です。

宗門改と人別改は、公儀(江戸幕府)に関わる重要なものであるため、適当にとりかはらないように毎回命じているとあります。

そして、川越藩では、例年は役人が村に出向いて宗門改を行っているが、天保7年は酷い凶作で藩領全体が困窮しているため村に出向くのは止めるので、名主が帳面(宗門改帳、人別改帳)を役所に持参するように命じています。この措置は一年限りで、村々から再び願い出ても聞き届けないとしていることから、村々が負担軽減を求めたと考えられます。

天保7年(1836)の凶作がどの程度のものであったかは年貢の量から推測できます。大久保村(現在の東大久保)では田の年貢として米111石9升3合を納めています。年によって変動しますが、江戸時代後期から幕末には135石から142石程度納めているので、2割前後減少しています。

宗門改帳や人別改帳に記載されない者は、キリスト教徒として摘発され、投獄される恐れがありました。このため、村に住む者全員の檀那寺の確認や、藩役人の接待など少なくない負担を、村では負わされていたのです。(山野健一)

儀
宗門改并人数改之
公儀え相掛り不軽義ニ
在之、少も差路不相成段
毎度申聞置候通ニ
有之候、然ル処去年中近
年稀成凶作にて御領分
一統困窮之段相聞候ニ
付、格別之以御容赦当
年宗門改之儀廻村相止
メ村々名主元にて相改
印形取揃、帳面役所へ持
参候様可申付旨被
仰付候、尤壹ヶ年ニ
相限義ニ有之、重て相
願候共決して不相成候
間、来成年よりは只今
迄之通り少も差路之筋
無之様御領分は不及
申、諸寺院え村々役人
共上より此等之趣委細
対談相固置候様可致候、
万一心得違候て疎略
がましク間敷有之候ハ、急度
可被仰付もの也

＊ ＊夏のイベント予定＊ ＊

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

新版 富士見のあゆみ発売!

富士見市の歴史をコンパクトに。近年の新発見や最新の学説を反映。1～2ページごとでまとめ、どこからでも読み始められます。
販売場所：水子貝塚資料館
難波田城資料館
価格：1000円(A5判、246ページ)
販売部数：500部 ※郵送販売も行っています。



●子ども裁縫教室

とき／8月2日(水)午前10時～午後2時
会場／講座室 対象／小学生～中学生
定員／12人(申込み順) 参加費／300円(材料代)
作品／きんちゃく袋・ショルダーバッグ
ポケットバッグ・ペンケースから選択
指導／美楽の会
申込み／6月29日(土)～7月22日(土)までに電話で

●夏休み古民家宿泊体験

古民家に泊まって、昔の暮らしを体験しよう!
とき／8月5日(土)午後1時～6日(日)午後2時
内容／工作、食事作り、ごえもん風呂など
対象／市内在住の小学4～6年生
定員／8人(申込順) 参加費／1500円(材料費・食費)
申込み／往復はがきにて
※詳しくは広報「富士見」7月号をご覧ください。

●「入間東部地区文化財フォトコンテスト作品展」

とき／8月1日(火)～8月31日(木)
会場／特別展示室

●じゃがいも掘り

とき／6月18日(日)午前10時、午前11時
集合場所／旧金子家住宅前(畑は公園の隣です)
定員／各16組(申込順) 参加費／1組1000円
主催／難波田城公園活用推進協議会
申込み／6月3日(土)午前9時から電話で

●竹かご教室

「六ツ目編み波縁カゴ」を作ります。
とき／6月25日(日)午前9時30分～午後4時
会場／講座室 対象／中学生以上
定員／12人(申込順、初参加優先)
参加費／1000円 指導／資料館友の会竹かご部会
申込み／6月1日(木)～8日(木)午前9時に電話で

●糸つむぎ(糸車)体験

とき／7月27日、8月3日、8月10日 ※各木曜日
午前10時～正午、午後1時～3時
(体験は5～10分程度) 会場／旧大澤家住宅
対象／子ども～大人 指導／資料館友の会木綿部会

●ふるさと体験「藍の生葉染め」

藍の葉で絹のストールを染めます。
とき／7月23日(日)午前9時30分～正午
※雨天の場合は30日(日)に延期
会場／納屋周辺 材料代／2000円
定員／6人(申込順、初参加優先)
指導／河野悦子氏(染色愛好家)
申込み／7月1日(土)～9日(日)に電話で

●早朝の蓮を見学できます

6月17日(土)～7月8日(土)の土曜日は、午前6時に開園します。開花状況はお問い合わせください。
資料館や古民家は通常どおり午前9時開館です。

●ちよっ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月18日(日)ふかしいも(じゃがいも)
7月23日(日)流しそうめん
8月はお休みです。

田舎まんじゅう販売
第1.3日曜日 10:30～

富士見のあゆみを学ぼう ～第9期市民学芸員養成講座～

資料館のボランティアである市民学芸員。令和6年4月から活動する第9期市民学芸員の養成講座を開催します。修了すると市民学芸員として登録することができます。登録の予定はなくても、郷土の歴史や文化に興味がある方の参加もお待ちしております。
※詳しくは広報「富士見」7月号をご覧ください。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報「富士見」やポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。



富士見市立難波田城資料館 TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト